

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 4. 8

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「神に喜ばれる生活を更に続けよう」

(テサロニケの信徒への手紙一 [七])

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第四章一～二節

さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願ひ、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいますが、どうか、その歩みを今後も更に続けてください。わたしたちが主イエスによってどのように命令したか、あなたがたはよく知っているはずで、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。すなわち、みだらない行いを避け、おの汚れない心と尊敬の念をもって妻と生活するように学ばねばならず、神を知らない異邦人のように情欲におぼれてはならないのです。このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしてはいけません。わたしたちが以前にも告げ、また厳しく戒めておいたように、主はこれらすべてのことについて罰をお与えになるからです。神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです。ですから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、御自分の聖霊をあなたがたの内に入れてくださる神を拒むことになるのです。

兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。現にあなたがたは、マケドニア州全土に住むすべての兄弟に、それを実行しています。しかし、兄弟たち、なおいっそう励むように勧めます。そして、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活を、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩みだれにも迷惑をかけないで済むでしょう。

(新共同訳聖書)

パウロが福音を伝え、信じてキリスト者となっ

た、テサロニケ教会の兄弟(信徒)たち。他の町へと進んでいったパウロは、残してきた彼らの信仰が、迫害、苦難の中で動揺してしまうのではないかと心配し、テモテを派遣しました。しかし、兄弟たちの信仰と愛が確かなものであり続けている様子を知ることができ、パウロは感謝に溢れました。

パウロはこの愛する兄弟たちに対して、更に願ひ、勧め、パウロがかつて命令したことがらを思い起こさせます。「命令」という言葉遣いに驚くかもしれませんが、パウロが命令したのはあくまでも「主イエスによって」でした。パウロを通してテサロニケの兄弟たちに語りかけるのは、本当には主イエスご自身なのです。ただ主イエスが、こうあつてほしいと願ひ、勧め、このように生きなさい、と権威を持つて命令してください。このテサロニケ教会の信徒たちの場合は、幸いなことに、現に、神に喜ばれるように歩んでいる、と称賛されました。しかし、これで十分、と安心して歩みを止めてしまふのではなく、「その歩みを今後も更に続けてください」と勧められています。今日のわたしたちの場合もそうです。神に喜ばれる生き方ができていないとすれば、当然すみやかに悔い改めるべきですし、もしできていないとすれば、なおいっそう励んで続けるべきです。主イエスはわたしたちを更なる成長、前進へと導くために、聖霊をお与えになるからです。

「更に続けるべき歩み」のポイントが二つ挙げられています。一つは「聖なる者となること」。「あなたがたは聖なる者となりなさい。あなたがたの神、主であるわたしは聖なる者である」(レビ記一九章二節)という、旧約時代以来の神からのご命令は、主イエスに従うキリスト者にとっても大切です。「聖なる者となれ」という命令は、元来広くさまざまな内容を含んでいて、神の前に出る妨げとなる祭儀上の「汚れ」を避けること(この点は主イエスが十字架の上で自らをいけにえとなさつたおかげで今は廃止されています)、偶像礼拝を避けること、孤児・寡婦・寄留者の権利を守ることなどもその一部でした。大まかに言えば、この神、この主に救っていただいた者は、ただ今

まで通りの生活を続けるのではなく、この神の愛と誠実、ひとすじの心、それにふさわしい生き方を追求すべきだということです。

ここではその一側面として、性に関わるものが挙げられています。「みだらない行いを避け、おの汚れない心と尊敬の念をもって妻と生活するように学ばねばならず、神を知らない異邦人のように情欲におぼれてはならないのです。」「これはキリスト教会の中でも特に男性の信徒に向けた勧告です。ギリシャ・ローマ文化の社会では、未婚の若者が娼婦と交わったり、夫が妻以外の女性と関係したりするのは公然のことでしたから、男性のキリスト者もそれに倣つてしまう誘惑、悪くすれば教会内でも不倫関係が結ばれるような危険が常にあります。そこで、初期のキリスト教会では、当時の社会常識とは違って、男性は一人の女性を誠実に愛するように、結婚の神聖を侵さないようにという教えが特に強調されました。神が、主イエスが、そういう愛と誠実の神だからです。時代や風潮は変わりましたが、現代のわたしたちにとつても、男性も女性も、この点で「聖なる者となる」ことは重要ではないでしょうか。

二つ目のポイントは、「兄弟愛」について。信者同士が互いに愛し合うように、という主イエスの教えを、具体的にどのようにするべきか、ということです。テサロニケ教会は、その位置するマケドニア州内の他の教会のためにも、献金その他で援助する働きをしていたと見られます。パウロは、現にそうしていることを、なおいっそう励むように勧めました。また、初期の教会では寡婦など貧しい信徒のために献金を用いる習慣がありました。必要以上に教会の援助に依存してしまふ人がいるという問題も、早くからあつたようです。「キリスト教会」というのはタダ飯を食いたい怠け者が群がる「ところだ」という悪評を立てられないためにも、キリスト者仲間迷惑をかけるためにも、可能な限り、おの自分の仕事できちんと生計を立て、本当に援助が必要な人のためにも蓄えを用いることができるようにする。互助の精神と、自助努力のバランスという、現代のわたしたちの社会・経済にも通じる課題です。

伝道

鈴木 晋

二月二十五日(日)、西南支区信徒研修会が美竹教会で開かれました。南部坂教会から教会修養会として十数名の有志が参加し、「伝道」をテーマに学びの時を持ちました。講師は東洋英和女学院院長の深井智朗先生。語り口は平易でかつダイナミック。心地よい九十分の講演に惹きつけられました。以下に、その要旨を報告いたします。

一、伝道はどこから始まるのか

日本の教会は熱心なだけども伝道は進まない。論に終わっているからではないか。私たちは信じていることについて確信が持てないでいる。伝道は確信に根ざすもの。これが福音だと確信できないことをどうして伝えられるのか。伝道は「救われる喜び」「救いの確かさ」から始めるべきもの。論でも学でもない。私たちがどこまで「喜びの礼拝」を持っているか、どれほど「福音の確信」に迫っているか、そこが問われている。そこから溢れる言葉、それが伝道です。

二、伝えるべき福音は何

神の国が近づいた、悔い改めて福音を述べ伝えよ。これが神の国の福音の内容です。しかし、我々は「神の国の福音」を語っているでしょうか。この世が終わって神の国が来るといふ、そのことを真剣に考えていますか。この世の喜び、生き抜くための作法に固執していませんか。この福音に対する曖昧さ、確信不足が伝道が伝わらない原因の一つではないか。もっと豊かな礼拝を守る、御言葉をいただいて生きる力を得る、「神の国への希望」を持つこと、これが伝道の力になる。

三、伝道と礼拝

我々教会人は、我々にしか使われない言

葉を使っていないか。交わり、お委ねします、とか一般人にわからない言葉を使う。「通じる言葉」が大切。テクニクでなく自分が大事に思っている人に通じる言葉を探す努力をして説明する、これは愛の言葉。私たちの教会の営みは、我々の世界にどっぷり浸かっている。しかし他の人のことを考えていない。一緒に福音の言葉を力強く語るための努力をどれ程しているか。祈りも、言葉が生きていると感じる時とただ読んでいるだけという時がある。福音を共に味わい、共に生き、共に祈っているということが伝わる祈り、それが「通じる言葉」ではないか。

四、家庭での伝道

家族や親戚に伝道できない、これは日本の伝道の課題の一つ。伝道したくないのではなく親しい程難しいという経験が多い。家族に教会の説教を話してもダメ。「信徒の友」を食卓に並べてもダメ。でも、教会に行って嬉しそうに礼拝を守って福音に生きていること、それは親にも子にも伝わる言葉じゃなくて安心します。キリスト教の「愛の行為」です。私たちが生きて行く姿、祈る姿の背中を見せることが一番の伝道だと思ふ。

五、教会外のキリスト教

日本にも「教会外のキリスト教」の人々がいる。キリスト教学校の生徒や親の存在もその一つ。キリスト教学校も祈りを込めて生徒を送り出しているが、学生たちを迎える努力を教会はしているか。クリスマスもそう。教会の外の立派なクリスマス馬鹿にして、「教会が本当のクリスマス」というけれど、教会の方がいつも空いている。教会は福音を述べ伝えるという努力をしているか。また私たちは教会外からの問いに答えていない。TVでのコメントーターにキリスト関係者は呼ばれない。教会は教会の言葉できちっと答えて行かねばならない。伝道はマラソンじゃなくて「駅伝」がい

い。与えられた区間を走りぬく。最後にゴールすればいい。大事なのはタスキを繋ぐこと。それが教会の伝道です。伝道は私たちが人生の長さを超えて行く出来事です。我々が諦めることなく走り続ける、駅伝としての伝道は続く。与えられた時に与えられた場所、種を撒き続けるこれが伝道です。神が一番良い時に刈り取ってくださいのだから。二〇一八年にそれが実らなくても必ず神は私たちが蒔いた種を育ててください、そう信じて伝道を続けて行きましょう。

報 告

*高橋優美子神学生は、東京神学大学の内部試験に合格され、四月から大学院に進まれることになりました。

*本田タヅ子姉は、北海道帯広市への転居に伴い、三月四日(日)付で日本キリスト教会帯広教会に転会されました。

*三月十一日(日)午後、西南支区総会が行われました。全ての議案が承認、可決され、常任委員十二名の半数が改選されました。

*南部坂幼稚園では、三月十四日(水)、二十三名が無事卒園しました。十五日(木)に終園式が行われ、春休みに入りました。

《各部報告 三月度》

成人会

日時 三月十八日主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 八名
開会祈祷 鈴木晋兄
内容 発題された「福音派」について自由討論のち、来年度の成人会活動方針につき協

婦人会

議した。
・次年度会長に水沼和子姉を選出
・次年度も聖書研究を中心に進める。本年度のエレミヤ書に続いて、「哀歌」さらに「小預言書」十二冊(除くヨナ書)の聖書講読および協議を行う。
次回は四月十五日
開会祈祷 黙禱

日時 三月二十五日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 十名
開会祈祷 菊池才知子姉
閉会祈祷 各自小祈祷
内容
一、聖書研究「ヨシユア記」七、八、九章
七章 ユダ族のアカンは一部を着服して我が物とした。主は激しく憤り、ヨシユアに民を清め、「明日に備えて自分を聖別せよ」と命じさせた。
八章 主は勇気をもってアイに攻め上るように、ヨシユアを促す。こうしてアイは滅ぼされた。
九章 ヨルダン川の西岸から地中海にいたる山地の王たちは、ヨシユアの率いるイスラエル人がエリコ、アイを滅ぼしたことを聞くと連合してイスラエルと戦おうとする。
次回 四月二十二日「ヨシユア記」十、十一、十二章を学ぶこととする。
二、佐藤マリエ姉による婦人会会計報告
三、二〇一八年度愛餐会奉仕の分担を協議する協議。従来、婦人会で行っていた東京神学大学および虹のいえ信愛荘に対する献金を余剰金から充てることとした。余剰金の献金明細 東京神学大学 一万円、虹の家信愛荘 五千円、イースター献金 二万円